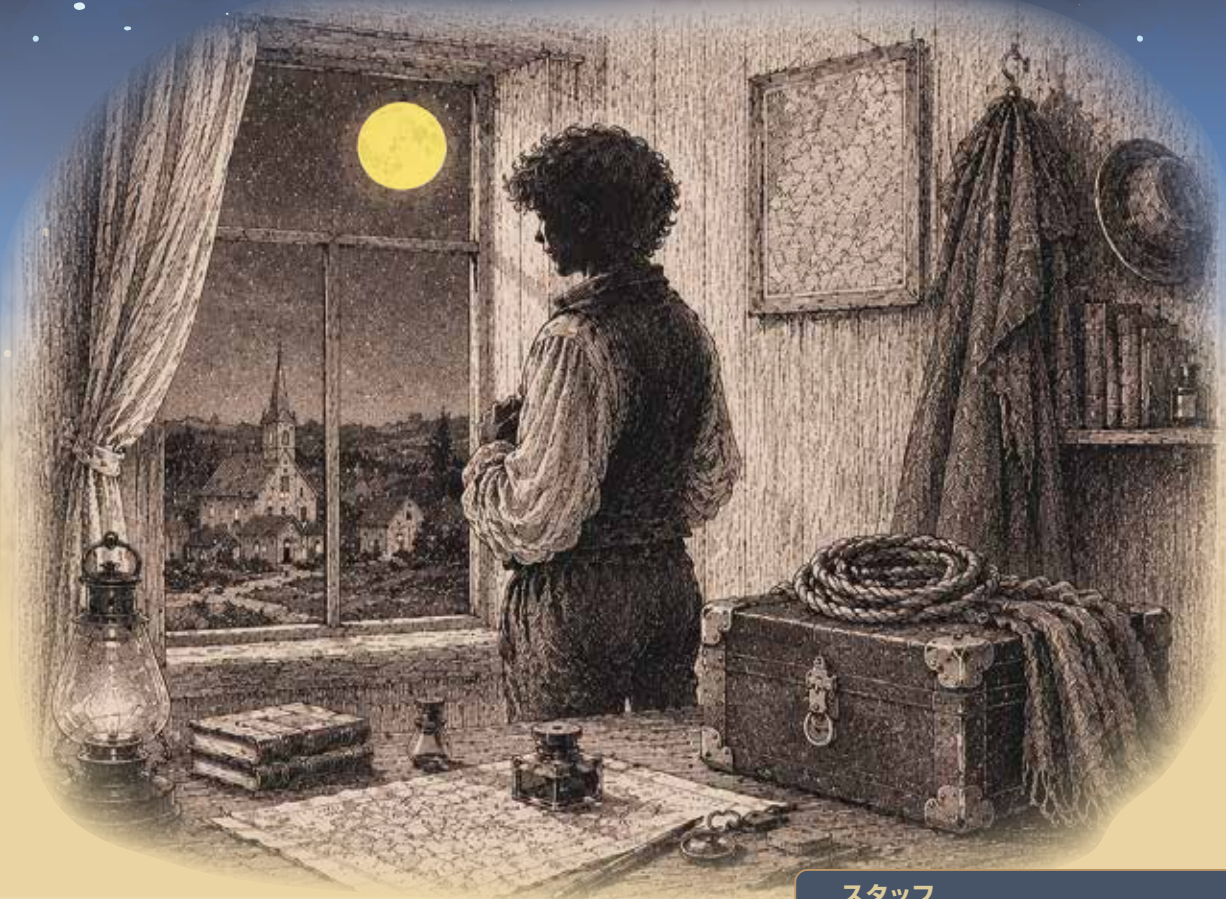


総合舞台芸術創造プロジェクト2026 ミュージカル劇

「月、ロープ、インク、塩。」 ハンスと旅の支度」

～アンデルセンの言葉と作品たち～



その生涯は旅の連続でした。見知らぬ土地、人々、違う言葉……。友と呼べるのは故郷と同じ月だけ。トランクのロープは、火事を知らせてくれなかった時の脱出用。彼は自分が孤独と知っていました。

旅の先々で物語を思い描き、書き記し、そこに一つまみの塩を。塩はユーモア、皮肉であり、時には自分への嘘でもありました。アンデルセンをめぐる最後の旅に出たいと思います。

スタッフ

構成・演出：原田 一 樹 (劇団キンダースペース)
脚 本：原田 一 樹 君塚 麻衣
照 明：沖野 隆 一 (RYU CONNECTION)
振 付：松田 紀 子
歌 唱 指 導：松本 泰 子
舞 台 進 行：森下 高 志
演 出 助 手：白沢 靖 子 瀬田ひろ美
作曲・芸術監督：和田 啓
(船橋市文化芸術ホール 芸術アドバイザー)

令和8年11月7日(土)・8日(日)

各日午後2時開演 (午後1時15分開場)

会場：船橋市民文化創造館 (きららホール)

全席指定

一般 1,000円 高校生以下 500円

※未就学児入場不可

〔電話・オンライン受付〕

チケット
発売日

令和8年9月16日(水) 午前10時から

※窓口発売・発売は令和8年9月17日(木) 午前10時から

お申込み
お問合せ

船橋市民文化創造館 (きららホール) TEL 047-423-7261 ※チケット受付時間 (午前9時～午後8時 / 土日祝日 午後5時まで / 毎月最終月曜休館)
〒273-0005 船橋市本町1-3-1 フェイスビル6階 (JR・東武 船橋駅南口、京成船橋駅東口 徒歩2分) ※当ホールに駐車場はありません。

主 催 船橋市民文化創造館 (きららHall) 助 成 一般財団法人地域創造



オンラインチケットシステムでのご購入はこちら!

船橋 きららホール チケット 検 索

※チケット代のほか、手数料が必要な場合があります。



「月、ロープ、インク、塩。ハンスと旅の支度」 ～アンデルセンの言葉と作品たち～

20年前、船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザー、音楽家和田啓さんの発案でスタートしたアンデルセンを巡る旅はたくさんの出会いを生んでまいりました。のべ500人にも及ぶ8歳から80歳までのキャスト、スタッフ。その時々のお客のみなさん。そしてなによりも150年前に書かれた一人の詩人の数多くのメルヘン……。19世紀の西欧は近代化の只中にありました。大きな工場は新製品を大量に生み出し、張り巡らされた鉄道はあっというまに人や物をより遠くへ。人々の生活はより便利に、明るく。古く不便なものたちは次々に買い換えられ、不用品は処理されます。社会はエリートが動かし、人は人と区別され、マッチを造る工場を持つ資本家と余ったマッチを売る少女の人生はまるで違うものになりました。アンデルセンはビンの首や、捨てられたモミの木、取り残された老人、子供を亡くした母親、声をなくした人魚の人生を想い、語りました。それは彼が洗練された詩心や慈愛、高い徳、物事を見通す能力に恵まれていたからではありません。彼は自惚れが強く、嫉妬深く、自己憐憫と承認欲求のかたまりで、それゆえに絶望と深い孤独、取り返しのない後悔を痛いほど知っていたからです。

今回も例年のように、アンデルセン作品から三本ほど選び、公募による出演者によってオリジナル作品としてミュージカル舞台化します。ただ今回は、作家自身の人生の断片と作品を結び付け、その生涯も感じてもらうべく仕組んでいこうと考えております。

原田 一樹（脚本・構成・演出）

公募による参加者のみなさん／キャスト

（五十音順）

天田 公美子	A n n	池田 明季哉	池 田 六 花	い ぶ き
上 原 ち え	江 島 佑 佳	大 川 綾 香	大 蔵 京 子	大 島 愛 子
岡 田 愛 香	音 原 茜	笠 原 珠 美	笠 原 仁 子	門 島 華 恋
君 塚 麻 衣	倉 田 佳 代 子	小 泉 美 智 子	小 島 雅 美	小 林 理 和
白 井 知 花	高 橋 清 美	田 中 真 穂	て こ	D E K O
豊永 亜友子	中 沢 愛 子	橋 本 雫 音	宮 澤 凜 香	村 上 牧 美
M e g u	柳 井 春 香	柳 澤 す み れ	や ま こ	吉 野 美 奈 子
渡 邊 真 澄				

公募による参加者のみなさん／スタッフ

（五十音順）

いずみあさこ 市川 陽南子 高 橋 秀 郎 御子柴 文子

和田 啓（船橋市文化芸術ホール 芸術アドバイザー）

今なお読み継がれるアンデルセン童話の世界を、直に触れる事の出来る物語として、大人も子供もみんなで作って、ご覧頂く皆さんと共有したい、そして未来に手渡したい。そんな思いの結晶がこの作品です。果てない物語の旅をどうぞご一緒にお楽しみください。

